

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「生徒たちが『入学してよかった』と思える学校、保護者に『入学させてよかった』と提供いただける学校、卒業生がすばらしい『母校』と思える学校、地域の方に『一緒にがんばろう』と提供いただける学校」をめざす。

- 1 生徒の自己実現に向けた教育活動により、夢と志を持った生徒を育成する。（目標あるキャリア教育）
- 2 人権尊重の精神に基づいて、モラルやマナー面での社会的な人間力を育てる。（人権教育をふまえた社会的実力の育成）
- 3 地域や保護者等との信頼に基づいた連携関係を構築して教育活動を展開する。（社会に開かれた学校づくり）

2 中期的目標

1 確かな学力の定着

- (1) 少人数授業の展開やICTを活用した授業の拡充等により魅力ある授業づくりを推進し、学びの意欲を高め基礎学力の定着を図る。
- (2) 「SK勉強会」などの授業研修を実施することで、校内での研究授業等を充実させ、経験の多少によらず教員力・授業力の向上を図る。

* 生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」(平成30年度55.4%)に関して2021年度には65%以上をめざす。

2 多様な進路の実現

- (1) 多様な進路を実現するための進路支援システムを確立し、早期に進路目標を意識させる指導を行う。

* 卒業後に自己実現のための準備とするもの以外の進路未決定率(平成30年度2.9%)に関して、2021年度には2%をめざす。

* 大学進学を希望する生徒に力をつけて、2021年度には難関私立大学・国公立大学にチャレンジする生徒5名以上を育てることをめざす。

3 社会に貢献する人材の育成

- (1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識向上に向けた取組みを推進するとともに、個々の生徒への支援体制を強化する。

ア 社会的なモラルやマナーを遵守することの大切さを理解させて、社会的な実力を育成する。

イ スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)を活用した教育相談体制を確立させ、個々の生徒への支援体制を充実させる。

* 生徒向け学校教育自己診断における生活規律等基本的な習慣の指導確立項目(平成30年度61.4%)に関して、2021年度まで70%以上をめざす。

* 生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目における満足度(平成30年度53.5%)に関して、2021年度には60%をめざす。

- (2) 特別活動を充実させ生徒の参加を促進することで、生徒の自己肯定感を醸成するとともに、学校への帰属意識を高める。

ア 学校行事や部活動において、生徒の自主性を高めるとともに、集団の中で他と調和しながら行動する能力を育成する。

イ 「堺上高杯」等において地域や小中学校とのさらなる連携を図ることを通して、生徒に自尊心とボランティア精神を育む。

* 生徒向け学校教育自己診断における行事に対する満足度(平成30年度66.3%)に関して、2021年度には75%以上をめざす。

* 生徒の入部率を(平成30年度36.7%)を毎年3ポイント引き上げ、2021年度には45%以上をめざす。

4 校内運営体制の改善と人材の育成

- (1) 組織業務の見直しを行い、必要な統合を進め、精選と簡素化、業務量の検討を行なうことで体制の強化と労働時間の適正化を図る。

- (2) 「SK教員絆プロジェクト」に基づき、本校独自の「SKミーティング」「SK勉強会」等を開催し、教員力育成事業を推進することにより育成システムを構築する。

5 広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進

- (1) 地域の中学校等への広報の充実に努め、更なる連携を推進する。

* 知名度を高め魅力を発信すべく「堺上高杯」への参加校及び中学生数(平成30年度50校807名)に関して、新規の参加校開拓をしながら2021年度まで同水準の数値を維持することをめざす。

- (2) 保護者が積極的にPTA活動に参加できるよう、PTA活動内容の精査を行いさらなる充実を図る。また、保護者向けメール配信の内容を充実させ、学校の教育活動への理解を深める。

* 保護者向けメールの登録者(平成30年度475名57.4%)に関して2021年度には70%以上の登録をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【自己診断全般について】</p> <p>肯定的意見が増えている項目も多いが、学校から保護者への情報発信に関してなど肯定値が下がっている項目については、次年度の改善をめざしたいと考えている。</p> <p>【生徒の回答から】</p> <p>社会的実力育成のため、規律やルールの遵守強化に取り組みながらも「学校へ行くのが楽しい」という意識を育むことが大きな課題である。遵守指導に対する理解値は上がってきているので、引き続き粘り強く指導をしていきたい。</p> <p>教員の授業のあり方に対する設問では多くの項目で数値が上がってきている。今後は工夫の効果が生徒の実態に即したかたちでより発揮されるように取り組んでいきたい。</p> <p>相談体制や親身度合い、進路情報提供度合いに関して軒並み数値が上がった。今後も様々なケースへの柔軟な対応を心がけたいと考えている。</p> <p>【保護者の回答から】</p> <p>「子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている」(3.6%)「子どもは、自分の学級が楽しいと言っている」(7.7%)の両項目で肯定的回答値が上がっているのは、よかったと感じている。規律、ルールの遵守強化と学校生活の楽しさを並立させるためには、保護者の理解と協力が必要なので、引き続き学校と家庭の連携を図りながら一緒に社会的実力の育成にあたりたい。</p> <p>相変わらず回収率が低い状態なのが、課題である。</p> <p>【教職員の回答から】</p> <p>様々な事象に対する教育相談や連絡体制についての項目で高い肯定値を示しているため、より生徒に寄り添う組織のかたちでできてきている。組織運営面で肯定値が低い項目については改善を図りたい。</p>	<p><第1回>令和元年6月24日(月)</p> <p>規律指導に関して...人間関係があるから指導が成り立つ。教師が理解してくれるという思いがあれば、生徒の受けとめ方が違ってくる。学校全体として、教員が生徒と良い人間関係を結んでいる、と校内見学で感じた。服装に関して、改善されてきていると思う。</p> <p>自転車指導に関して...自動車学校で全体講習を受けている高校もある。堺上高校でも様々な指導をしているようだが、それを学校として根気強く続けてほしい。</p> <p>クラブ活動等に関して...学校として部活に入ることを勧めているのに、入部率が上がらない現状がある。高校に入学後、出直して入部したという嬉しい報告も受けたので引き続き努力してほしい。地域の祭り等にも参加しているので、その点でもうれしい。</p> <p><第2回>令和元年11月18日(月)</p> <p>授業改善に関して...生徒の第1回授業アンケート結果、ほとんどの教科で数値が上がったのは、教員の努力の結果だと思う。これからも教科指導について生徒の気持ちに寄り添いながら工夫していただきたい。</p> <p>規律指導、地域との連携に関して...複雑さを増すSNS関連の指導についての報告もあったが、地域、保護者、他校種との結びつきのもとに、人間性の育みについて、日常の授業や特別活動等の時間で引き続き指導していただきたい。</p> <p><第3回>令和2年2月19日(水)</p> <p>授業改善に関して...生徒の集中力を高めることも含めて、工夫のある授業展開が求められる。今後の社会では多様な進路選択がますます増えるだろう。学力の定着をめざす教員の努力を感じることで、生徒たちも自分の進路目標などを意識して、学習に対して意欲的になると思うので、引き続き授業改善等に尽力してほしい。</p> <p>生徒の学校生活に関して...あいさつをはじめとするマナーの指導は今後もしっかりとってほしい。自転車通学の様子は以前に比べて改善した。企業や近隣の者の立場から見ても、この学校の生徒の部活動でのがんばりなどはその後の人生でも役立つと思う。</p> <p>学校全般に関して...全体としては教員が教育活動に熱心に取り組んでいると思うので、期待のできる学校だと感じている。入学してよかった、入学させてよかったと思われる学校づくりをめざして、これからも努力をつづけていただきたい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

府立堺上高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の定着	(1) 学びへの意欲を高める (2) 研究授業等の拡充	(1) ・生徒の実態をふまえたうえで、効果的な場面でのICT機器の活用、対話的な視点に基づく学習活動などの導入を図ることを通して、生徒意欲・興味・関心を引き出す授業作りに取り組む。 (2) ・「SK教員絆プロジェクト」による「SK勉強会」を発展的に実施し、授業見学や研究協議を充実させ、課題を共有化することにより、同僚性を活かした授業改善を図る。	(1) ・生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」を60%以上に。(H30は55.4%) ・生徒向け学校教育自己診断でのPC、PJの活用度を75%以上に。(H30は73.6%) (2) ・「SK勉強会」の内容検証に伴う研究授業、協議を年に1回以上行う。 ・授業見学週間に参加する教員数を延べ50名以上に。(H30は35名) ・教員向け学校教育自己診断「教員の間で、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」を75%以上に。(H30は74%)	(1) ・教育自己診断57.1%だった。 継続して機器の効果的利用を行うなどしての、生徒の実態に即した授業作りに取り組みたい。() ・教育自己診断76.0%だった。() (2) ・「SK勉強会」研究授業、研究協議を11月に実施し、内容を府立学校メールマガジン掲載した。() ・授業見学週間参加者数62名だった。() ・教育自己診断74.5%。継続して同僚性を活かした授業改善に取り組みたい。()
2 多様な進路の実現	(1) 早期に進路目標を意識させる指導の充実	(1) ・外部講師等による進路講演会の実施や就職支援コーディネータの活用、内定者指導、進学講習など、個々の生徒の希望に応じたきめ細かな進路指導を行う。 ・医療看護系や4年制大学進学希望者向けには個々の進路に応じた個別講習を実施する。 ・H30 から1回となった大学見学会について、生徒の進路実態により即した内容への刷新を図り、参加者増に向けた広報の工夫に努める。 ・漢検・英検・パソコン検定の受検促進を図る。	(1) ・難関私立大学・国公立大学にチャレンジする生徒数について昨年より増をめざす。(H30は3名) ・進学講習参加者を75名以上に。(H30は72名) ・大学見学会参加者数25名以上をめざす。(H30は19名) ・H30漢検52名、英検35名、パソコン検定28名の受検者数について、昨年より増をめざす。	(1) ・難関大学にチャレンジした生徒は5名だった。来年度はより増をめざしたい。() ・進路別講習参加者は96名だった。() ・見学会は近畿ポリテクカレッジに行ったが参加者数は15名だった。内容自体は充実していたが、必要性を含めて企画の総合的な見直しをするつもりである。() ・漢検19名、英検30名、パソコン検定16名だった。()減少傾向に歯止めをかけたい。
3 社会に貢献する人材の育成	(1) ア 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上 イ 個々への支援体制の強化 (2) ア 特別活動の活性化 イ 部活動等における地域や小中学校との連携	(1) ア ・自転車通学者が非常に多い状況を鑑み、大阪府の自転車条例をふまえ、自転車事故防止や安全向上のための講習会を、警察等と連携して実施するとともに、駐輪指導をはじめとする自転車関係の指導を強化する。 ・遅刻回数による段階指導や遅刻防止週間、入室許可書等これまでの指導システムを継続しつつ、個々のケースの原因の解決にあたることにより、遅刻数の減少に取り組む。 ・服着の観点を導入するなどして、服装等身だしなみの指導の強化を図る。 イ ・SCとSSWを活用した教育相談体制を充実させ、個々のケースに迅速に対応できる能動的な組織の確立に努め、外部機関との適切な連携を図る。 (2) ア ・体育大会や文化祭等の学校行事に工夫を加えて、生徒の学校生活の充実を図る。 ・中学生向け学校説明会においても生徒役員等の生徒が活躍する場を設け、生徒自身のモチベーションを高めるとともに、自己肯定感を醸成する。 ・入学後の体験入部の実施方法に工夫を加え、1年次の加入率を上げる。 イ ・「堺上高杯」を組織的に充実させ、地域の学校との連携を深める。 ・地域や小学校のイベントへの参加要請があれば、積極的に参加して、地域の方々と交流を図り、学校を理解していただく。	(1) ア ・自転車事故報告件数について、0件をめざす。(H30は1件) ・遅刻統計の総数で昨年度(6727回)の10ポイント減をめざす。 ・生徒向け学校教育自己診断での生活規律等基本的な生活習慣の指導確立を65%以上に。(H30は61.4%) イ ・生徒向け学校教育自己診断での担任以外にも相談できる先生がいるの肯定度を55%以上に(H30は53.5%) (2) ア ・生徒向け学校教育自己診断において、行事満足度を70%に。(H30は66.3%) ・学校説明会時の中学生対象のアンケートで、生徒の活躍に関する項目の肯定度の高い回答率を80%に。(H30は74.6%) ・1年次の加入率50%以上、全体の加入率45%以上をめざす。(H30はそれぞれ41.4%、36.7%) イ ・第4回「堺上高杯」を計画的かつ組織的に実施し、新規参加校を開拓し同水準の維持をめざす。(H30は49校852人) ・要請があれば大会等と重ならないかぎり積極的に参加する。(H30は2回の要請で2回とも参加した)	(1) ア ・自転車事故報告件数は1月24日現在で5件だった。継続して自転車関係の指導強化を図りたい。() ・遅刻統計総数は1月24日現在で7281回である。増えているので次年度、減少をめざしたい。() ・教育自己診断66.4%だった。基本的な生活習慣の指導を継続していきたい。() イ ・教育自己診断59.9%だった。相談体制の整理と強化を図りたいと考えている。() (2) ア ・教育自己診断は上がったが67.9%だった。行事を充実させることで学校生活の楽しさを生徒に実感させたい。() ・中学生対象のアンケート該当項目肯定度の高い回答率は72.1パーセントだった。() ・部活動1年次加入率は47.5パーセント、全体加入率は41.2パーセントだった()。H30よりは数値は上がったが、目標値に達しなかったため、引き続き部活動の活性化に取り組む。 イ ・「堺上高杯」については758名の中学生が参加(ウイルス拡大防止関連で2クラブ実施せず)。施設容量面でめい一杯状態で実施しており、教員と生徒が今年度も積極的に取り組むことができた。() ・3回の要請に対して、3回とも出席した。その縁で、ダンス部全国大会出場時には施設を貸してもらうなどして、交流を図ることができた。()

府立堺上高等学校

4 校内運営体制の改善と人材の育成	<p>(1)分掌や各種委員会等の業務の見直し</p> <p>(2)教員の教育力育成</p>	<p>(1)・業務内容を整理し、分掌統合を行なうなど、精選と簡素化、業務量の検討を通して組織体制の強化と労働時間の適正化を図る。 ・将来構想委員会をさらに活性化させ、新たな取組提言や提案を促し、その具現化に取り組む。</p> <p>(2)・「SK教員絆プロジェクト」により「SK勉強会」等を実施して授業力の向上を図るとともに、職員研修や独自のミーティングを実施して分掌業務や担任業務等に関する教員の教育力の向上を図る。 ・人権研修等の教職員研修の実施に際し、外部講師を積極的に招聘するなどして、学校の実情に即した内容となるよう創意工夫を行う。</p>	<p>(1)・教員向け学校教育自己診断での各分掌等の有機的な機能性を問う項目で65%をめざす。(H30は58%) ・新たな取組みを1件以上具現化する。</p> <p>(2)・教員向け学校教育自己診断での計画的な研修計画を問う項目で85%以上を維持(H30は88%)</p> <p>・教員向け学校教育自己診断での校内研修の教育実践有効性を問う項目で75%をめざす。(H30は70%)</p>	<p>(1)・教育自己診断59.6%だった。 継続して働き方改革に取り組みたい。() ・新たな取組みとして業務のスリム化アンケートを実施した。() (2)・教育自己診断74.5%だった。 数値が下がったので、ミーティング等の計画的な実施充実を図りたい。() ・教育自己診断63.8%だった。外部講師を招聘などしたが、数値は下がった。教育効果に結びつく校内研修実施に取り組みたい。()</p>
5 広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進	<p>(1) 広報の充実と地域他校種とのさらなる連携の推進</p> <p>(2) PTA活動のさらなる充実</p>	<p>(1)・全出身中学校に対し広報に努めるとともに3月に新入生の状況把握を行い個別の支援の一助とする。 ・本校独自の中高連絡会を実施し、生徒状況等について共有化を図る。 ・新着情報、フォトギャラリー、校長ブログ等HPの内容の充実させることで、Twitterに情報を発信する。 ・地域の小学校等と連携した取組み(イベント等への参加など)の要請があれば、積極的に参加して交流を図る。</p> <p>(2)・PTAの活動についての広報を工夫し、PTAの一日研修や教養講座への参加促進を図ること、保護者の学校への理解を深めていただく。 ・保護者向けメール配信「365日いつでもネット」の登録者を増やすとともに発信内容の充実を図る。</p>	<p>(1)・全出身中学校と連絡を取り、生徒の状況把握を行う。</p> <p>・中高連絡会参加10校以上をめざす。(H30は7校) ・本校HPのアクセス数年間20,000件以上をめざす。(H30年は災害があったので1月~H31年1月、約45,000件) ・校長ブログを70回以上更新する。 ・「近隣の学校などとの校種間連携の機会を設け、教育活動全般に活かしている。」の肯定回答値70%をめざす。(H30は66%)</p> <p>(2)・PTA主催の研修については定員に対し、70%以上の参加率をめざす。(H30は総数70/110人、63.6%)</p> <p>・「365日いつでもネット」登録率60%以上をめざす。(H30は57.4%) ・保護者向け学校教育自己診断における「365日いつでもネット」に対する肯定回答数を5ポイント増とする。(H30は67%)</p>	<p>(1)・3月に中学校訪問を行って、新入生の状況把握を行った。() ・中高連絡会参加校は8校だった。他業務とのバランスで見直しを検討する。() ・HPの年間アクセス数35,857件だった。() ・校長ブログは72回更新した。みである。() ・教育自己診断55.3%だった。地域からの要請には積極的に応えているが、教職員への周知努力が不足していた。()</p> <p>(2)・PTA主催の研修の参加率は50%にとどまった。文化祭PTA部門など実行委員レベルの活動は活発なので、活動内容の大幅な見直し必要の意見が出ている。() ・「365日いつでもネット」登録率は上がったが58.1%だった。() ・役立つか否かの教育自己診断は61.9%だった。発信内容のさらなる充実を図りたい。()</p>